

## 学会記事

## I. 運営委員会報告

以下の項目についてメール審議を実施した。

- 2013年度の大会開催地について審議し、開催地を仙台市に決定した（審議期間2011年10月12日から10月19日）。
- 東日本大震災復興への提言について、被災地における復旧、復興に際して、地域の植生、生態系の保全、それらを参照した再生の実施を植生学の立場から学会として提案することとし、そのための提言文を審議し、これを承認した（審議期間2011年10月21日から10月31日）。
- 新設した植生復興プロジェクト及び将来計画委員会における今後の活動のあり方について審議した（審議期間2012年5月31日から6月14日）。
- 論文賞の新設に伴う植生学会表彰規程の改定について審議し、これを承認した（審議期間2012年9月5日から9月12日）。

植生学会表彰規程の改訂内容（変更箇所のみ）は以下のとおり。

（旧）

第3条 [表彰の種類] 表彰の種類は次のとおりとする。

- 植生学会賞
- 植生学会奨励賞
- 植生学会功労賞
- 植生学会特別賞
- 植生学会研究発表賞

これ以降はそれぞれ学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞、研究発表賞とよぶ。

第5条 [受賞者の決定] 表彰委員会は学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞の受賞候補者について審議し、受賞予定者を選定する。各賞の受賞者は運営委員会の議を経て決定する。研究発表賞の受賞者は、表彰委員長が委嘱した審査員の協議によって決定する。

（新）

第3条 [表彰の種類] 表彰の種類は次のとおりとする。

- 植生学会賞
- 植生学会奨励賞
- 植生学会功労賞
- 植生学会特別賞
- 植生学会研究発表賞
- 植生学会論文賞

これ以降はそれぞれ学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞、研究発表賞、論文賞とよぶ。

第5条 [受賞者の決定] 表彰委員会は学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞の受賞候補者について審議し、受賞予定者を選定する。論文賞については編集委員会が受賞候補者について審議し、受賞予定者を選定する。各賞の受賞者は運営委員会の議を経て決定する。研究発表賞の受賞者は、表彰委員長が委嘱した審査員の協議によって決定する。

第11条 [論文賞] 本賞の対象論文は、表彰を行う植生学会大会の前年度に刊行された「植生学会誌」に掲載された原著論文とする。別に定める植生学会論文賞細則に基づいて受賞予定者を選定する。

- 2012年度学会各賞の受賞予定者について審議し、受賞者を決定した（審議期間2012年9月5日から9月12日）。

2012年10月13日に千葉大学園芸学部において定例の運営委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

- 2011年度収支決算（案）について審議した。
- 2012年度収支予算（案）について審議した。
- 東日本大震災の被災海岸域では復興事業に伴う植生への悪影響が懸念されており、それを回避することを目的に、植生学会から林野庁など開発担当部局への要望書が企画委員会を中心に準備されてきた。この文書の内容について審議を行い、現地の状況を考慮して文章に反映させるなど、引き続き企画委員会を中心に審議することとした。また、要望書を作成し、林野庁、森林管理局、森林管理署等に1～2ヶ月を目途に要望することとした。
- 植生調査法講習会の開催などを企画して、植生学会が持つ知財を若手の人材育成のために積極的に活用することとした。
- 個々の会員が保有するオリジナルの植生調査資料は学術的な解析の目的に加えて、様々な用途で利用が期待されている。これらを学会員及び一般で活用しやすくする仕組み作りについて、学会として着手することとした。
- 学会会員向けにメーリングリストを開設し、情報の共有、発信を促進させることとした。
- 第18回大会（2013年度）の開催地について、2013年10月12日から10月14日に仙台市戦災復興記念館で開催することとした。

## II. 編集委員会報告

2012年10月13日に千葉大学園芸学部において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

- 会誌における文中、表中の学名の表記を論文内で統一することとした。
- 編集内規を改正して、第1審で判定が分かれた場合から第3の校閲者を立てることとした。

## III. 企画委員会報告

2012年10月13日に千葉大学園芸学部において定例の委員会を開催し、林野庁長官に対する植生学会からの要望書、津波被災地での防潮堤建設に関する協力の申し出、2012年度植生学会シンポジウムについて審議した。

## IV. 表彰委員会報告

- 学会賞等の推薦を活発化させるため、推薦状のフォーマットを作成して学会ホームページに掲載するとともに、推薦文や業績リストの簡略化を進めることとした。
- 学会賞受賞者には主な研究内容を分かりやすく解説した記事を執筆してもらい、プロフィールの紹介とともにホーム

ページ上で公開することとした。

## V. 将来計画委員会報告

2012年5月14日に(財)自然環境研究センターにおいて臨時の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 群集データベースの構築のための作業グループを設置することとした。
2. 植生学会将来計画(案)の内容について審議した。

2012年10月13日に千葉大学園芸学部において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 植生学会将来計画(案)の内容について審議した。
2. 2013年度に、学生・若手研究者を対象とした植生調査法のトレーニング講座を試行的に実施することとした。

## VI. 2012年度総会報告

2012年10月14日に千葉大学園芸学部において2012年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

### A. 報告事項

#### 1. 学会事務局

2012年10月3日現在の会員数(正会員数559名、団体会員11団体、賛助会員1団体)が報告された。

#### 2. 各種委員会

上記I-Vの運営委員会、各種委員会の審議事項が報告された。

### B. 承認事項

1. 2011年度収支決算(別掲1)を承認した。
2. 2012年度収支予算(別掲2)を承認した。

## C. その他

第18回大会開催地(仙台市)の運営代表者として佐々木洋氏より、多数会員の参加が要請された。

## VII. 学会賞

2012年度の学会各賞の受賞者は以下のとおり。授与式は2012年10月14日に行われ、各賞受賞者に表彰状と記念品が福島会長から贈呈された。

植生学会賞 原 正利(千葉県立中央博物館)  
 植生学会奨励賞 比嘉基紀(北海道大学大学院農学研究院)  
 植生学会論文賞 大津千晶(東京農工大学農学府), 星野義延(東京農工大学大学院農学研究院), 末崎 朗(新潟県庁)

秩父多摩甲斐地域を中心とする山地帯・亜高山帯草原に与えるニホンジカの影響(植生学会誌 第28巻 第1号 1-17頁 2011年6月発行)

### 植生学会研究発表賞

口頭発表賞 早坂大亮(国立環境研究所)

東北沖津波による海岸砂丘植生への生態影響評価。

口頭発表賞 水野大樹(千葉大大学院)

樹種の違いおよび樹幹に着生する蘚苔類群落がノキシノブの定着に与える影響。

ポスター発表賞 村松弘規(北海道大学大学院農学院)

エゾシカの採食と踏みつけによる釧路湿原高層湿原植生の変化

別掲1. 植生学会2011年度収支決算

(単位: 円)

収入の部	予 算	決 算	差 異	備 考
前期繰り越し	5,098,464	5,098,464	0	
会費	3,392,000	3,301,000	91,000	
バックナンバー売り上げ	20,000	15,400	4,600	
雑収入	500,000	513,524	-13,524	
		(19,934)		内訳1: 著作権使用料など
		(493,590)		内訳2: 植生学会誌別刷・超過ページ
利息	500	87	413	
計	9,010,964	8,928,475	82,489	
支出の部	予 算	決 算	差 異	備 考
植生学会誌刊行費 900,000円×2回	1,800,000	1,791,178*	8,822	*第28巻1号・2号
植生情報刊行費 500,000円×1回	500,000	577,500*	-77,500	*第15号
学会事務局経費	700,000	660,129	39,871	
編集事務局経費	100,000	21,515	78,485	
植生情報編集費	40,000	36,560	3,440	
企画委員会経費	400,000	150,665	249,335	
表彰委員会経費	150,000	51,905	98,095	
大会補助費	350,000	350,000*	0	*第16回大会
予備費	4,970,964	136,785	4,834,179	
		(89,430)		内訳1: 震災復興プロジェクト
		(47,355)		内訳2: 植生学会誌別刷・超過ページ
計	9,010,964	3,776,237	5,234,727	
収支差額(繰り越し)	0	5,152,238	-5,152,238	

## VIII. 植生学会第17回大会報告

植生学会第17回大会(大会会長: 沖津 進, 実行委員長: 大野啓一)が, 2012年10月13日から10月15日にかけて, 千葉大学園芸学部において開催された(下記日程). 一般講演では口頭37題, ポスター21題の発表が行われた. 参加者は予約申込者91名, 当日参加者83名の計174名であった.

10月13日 サテライト集会「日本の温帯林の内容と位置づけ」, 各種委員会, 運営委員会

10月14日 一般講演(口頭発表・ポスター発表), 学会賞授与式, 総会, 学会賞受賞者講演, エクスカーション説明会, 懇親会

10月15日 エクスカーション(東京大学千葉演習林)

一般講演は以下のとおりであった.

〈口頭発表〉

- A01 乗鞍岳における風衝地ハイマツ群落の更新. 後藤稔治(岐阜県立大垣養老高校)・田中俊弘・酒井英二(岐阜薬科大学)・川村智子(名城大・薬)
- A02 北北海道北西部および本州日本海側の垂直分布の推移. 沖津 進・百原 新(千葉大・園芸学研究科)
- A03 カナダ高緯度北極域の植物社会学的特性. 小島 覚(北方生態環境研究学房)
- A04 北極圏 Abisko の植生景観の一端. 田中徳久(神奈川県立生命の星・地球博物館)
- A05 琵琶湖湖岸植生の類型とその特性. 村上雄秀(IGES 国際生態学センター)・西川博章((株) ラーゴ)・佐々木寧(埼玉大学)
- A06 伊豆天城山系北麓の菅引川源流域のケヤキ林. 大野啓一
- A07 さいたま市荒川河川敷のハンノキを中心とした河畔林における成立年代別の遷移過程. 若山正隆(東大・院・農)・古橋光弘・佐藤正人(浦和自然観察会)・大澤 元(自然観察指導員埼玉)・中村純子・山口綾子・西ノ原草

- 浩(浦和自然観察会)・高橋勝緒・高橋絹世(和光・緑と湧き水の会)・太田和夫(元埼玉県立自然史博物館)
- A08 鳥取県三徳山周辺における森林帯の垂直分布と人為的かく乱. 永松 大・濱木涼子(鳥取大・地域)
- A09 中国山地のたたら製鉄地域における地域植生図の作成—クラス域境界の検討について—. 則行雅臣(中外テクノス株式会社)・森定 伸(株式会社ウエスコ)・佐藤克則・中尾茂樹(中外テクノス株式会社)・西本 孝(岡山自然保護センター)・永松 大(鳥取大学)・波田善夫(岡山理科大学)
- A10 書籍総合目録データベースを基にした植生調査資料目録. 三上光一・楠本良延・山本勝利(農環研)
- A11 関東地方およびその周辺地域から見出された生態種群の特徴. 亀井裕幸
- A12 長期耕作放棄地におけるセイタカアワダチソウの個体群動態. 池田浩明(農環研)
- A13 軽井沢三ツ石地区における風倒跡地の草原再生実験. 亀井裕幸(東京都北区役所)
- A14 高知県中部にみられるナガエミクリ群落にとっての湧水環境の意義. 山ノ内崇志・石川慎吾(高知大・院・黒潮圏総合科学)
- A15 須賀利大池(三重県尾鷲市)におけるシカ食害にともなうハマナツメ群落の衰退. 山本和彦(三重県立尾鷲高校)
- A16 海洋島において地域外来種リュウキュウマツの生育が示すこと. 飯島 友(千葉大・院・園芸)
- A17 気象データと植生からみた奄美豪雨による森林の土砂崩れ. 小林悟志(国立極地研究所)・北本朝展(国立情報学研究所)
- A18 南西諸島の照葉樹林の植物相と種多様性. 服部 保(兵庫県立大学)・南山典子(兵庫県立人と自然の博物館)・黒田有寿茂(兵庫県立大学)・橋本佳延(兵庫県立人と

## 別掲2. 植生学会2012年度収支予算

(単位: 円)

収入の部	2012年度	2011年度	差 異	備 考
前期繰り越し	5,152,238	5,098,464	53,774	
会費	3,280,000*	3,392,000	-112,000	*一般462, 学生97, 団体11, 賛助1
バックナンバー売り上げ	20,000	20,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
利息	500	500	0	
計	8,952,738	9,010,964	-58,226	
支出の部	2012年度	2011年度	差 異	備 考
植生学会誌刊行費 900,000円×2回	1,800,000*	1,800,000	0	*第29巻1号・2号
植生情報刊行費 650,000円×1回	650,000*	500,000	150,000	*第16号
学会事務局経費	700,000	700,000	0	
編集事務局経費	100,000	100,000	0	
植生情報編集費	40,000	40,000	0	
企画委員会経費	600,000*	400,000	200,000	*第8回シンポジウム
表彰委員会経費	50,000	150,000	-100,000	
将来計画委員会経費	150,000	0	150,000	
大会補助費	350,000*	350,000	0	*第17回大会
震災復興プロジェクト経費	900,000	0	900,000	
群集データベース作業グループ経費	150,000	0	150,000	
予備費	3,462,738	4,970,964	-1,508,226	
計	8,952,738	9,010,964	-58,226	

- 自然の博物館)・石田弘明(兵庫県立大学)
- B01 くじゅう火山群坊ガツルにおける最近6年間の植生推移. 桑原佳子・足立高行(応用生態技術研究所, NPO おおいた生物多様性保全センター)・播磨さおり(NPO おおいた生物多様性保全センター)
- B02 火山植生遷移における先駆植物種の侵入が種多様性と生態系の機能発達に与える効果. 上條隆志・東 亮太(筑波大生命環境)・久保栄子・藤井美央・黛 絵美(筑波大生物資源)
- B03 火山灰堆積地における植生の変化と初期土壌生成. 鷹野綾(筑波大学生命環境学群)
- B04 モンゴル西部における典型ステップの植物社会学的検討. 鈴木康平(筑波大・院・生命環境科学)・Tsagaanbandi Tsendeekhuu(National University of Mongolia)・Amartuvshin Narantsetsegiin(Institute of Botany, Mongolian Academy of Science)・上條隆志(筑波大・生命環境系)・中村 徹(筑波大・生命環境科系)
- B05 東北地方の地すべり地に成立する湿地林の構造および動態. 原 賢太郎(宮崎大学・農)・小野寺弘道(元山形大学・農)
- B06 広域スケールでのブナの更新に適した気候環境および過去400年間の更新機会の推定. 比嘉基紀(北大・院・農)・中尾勝洋・津山幾太郎・松井哲哉・小南裕志・田中信行(森林総研)
- B07 奥日光の冷温帯林における森林棲コウモリ3種のねぐら木の特性. 吉倉智子(筑波大学大学院)・渡邊真澄(桐光学園)・安井さち子(つくば市並木)・上條隆志(筑波大学大学院)・福井 大(韓国国立生物資源館)
- B08 樹種の違いおよび樹幹に着生する蘚苔類群落がノキシノブの定着に与える影響. 水野大樹(千葉大・院・園芸)・竹崎大悟(千葉大・園芸)・百原 新・沖津 進(千葉大・園芸学研究所)
- B09 屋久杉に着生する蘚苔類の垂直分布. 竹崎大悟(千葉大学園芸学部緑地環境学科)・石井弘明(神戸大学農学部資源生命科学科)・沖津 進(千葉大学・園芸学研究所)
- B10 北海道の砂質海岸における植生構造と植物地理. 鳥居太良・富士田裕子(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)
- B11 東日本大震災津波が岩手県の海岸砂丘と海浜植生にもたらしたもの. 島田直明・昆野紘士(岩手県大)・早坂大亮(環境研)・川西基博(鹿児島大)
- B12 2011 東北沖津波による海岸砂丘植生への生態影響評価. 早坂大亮(国環研)・島田直明(岩手県大)・川西基博(鹿児島大)
- B13 東北地方太平洋沖地震に伴う大津波による三陸海岸最北部の海崖地植生の変化. 久保翔太・玉川翔也・荒木田基一・伊藤大樹・小山千穂・鮎川恵理(八戸工業大学)
- B14 南蒲生/砂浜海岸エコトーンモニタリングサイトにおける植生と立地の攪乱・自律的再生状況. 平吹喜彦(東北学院大学・地域構想)・菅野 洋((株)宮城環境保全研究所)・富田瑞樹(東京情報大学・環境情報)・杉山多喜子(宮城植物の会)・原 慶太郎(東京情報大学・環境情報)
- B15 仙台平野沿岸部における海岸林に巨大津波が与えた影響—南蒲生モニタリングサイトの事例—. 富田瑞樹(東京情報大学)・平吹喜彦(東北学院大学)・菅野 洋((株)宮城環境保全研究所)・原 慶太郎(東京情報大学)
- B16 仙台湾岸の樹木が受けた東日本大震災による津波被害—樹型に着目した評価を中心に—. 長島康雄・攝待尚子(仙台市科学館)
- B17 福島県磐城海岸の砂丘植生—津波影響後の現状—. 浜田拓・根本秀一・阿部このみ((株)地域環境計画)・藤原かおり(福島県生活環境部自然保護課)
- B18 航空機及び衛星リモートセンシングによる津波被災地の植生モニタリング. 原 慶太郎・趙 憶・富田瑞樹(東京情報大・環境情報)・鎌形哲稔・赤松幸生(国際航業)・平吹喜彦(東北学院大学・地域構想)
- B19 植生学会震災復興プロジェクトチームの活動について. 原 正利(千葉県立中央博物館)  
<ポスター発表>
- P01 水田生態系におけるランドスケープ構造に応じた種多様性評価. 楠本良延(農環研)・三上光一(農環研)・細木大輔(農環研)・山本勝利(農環研)
- P02 和歌山県地理情報システムを用いた植物群落に関する地理空間情報の庁内共有. 内藤麻子(和歌山県立自然博物館)
- P03 九州地方における希少種のホットスポットはどこか? ニッチベース分布予測モデルによる推定. 中尾勝洋(森林総合研究所)
- P04 地域植生図作成における組成調査データの活用. 森定伸・天野裕平(株式会社ウエスコ)・則行雅臣・中尾茂樹(中外テクノス株式会社)・西本 孝(岡山自然保護センター)・永松 大(鳥取大学)・波田善夫(岡山理科大学)
- P05 日本中部地方のエコトーンにおけるシダ植物種構成パターン. 田中崇行(信州大学総合工学系研究科)・佐藤利幸(信州大学理学部生物科学科)
- P06 関東東部畑地域における農地境界樹の空間分布とその伝統的管理. 徳岡良則・細木大輔(農環研)
- P07 札幌市南東部における孤立林の種多様性および植物相と林分属性との間の関係について. 並川寛司・舟根香織(北海道教育大学札幌校生物学教室)
- P08 氷ノ山後山那岐山国定公園内のブナ天然林における19年間の林分動態. 木下 秋(岡山大院環境)・赤路康朗(岡山大院環境)・牧本卓史(岡山県)・宮崎祐子(岡山大院環境)・廣部 宗(岡山大院環境)・水永博己(静岡大農)・坂本圭児(岡山大院環境)・山本進一(岡山大)
- P09 ブナ科樹木3種の豊凶量と結実量の差異. 清水寧久・神崎 敦・永松 大(鳥取大・地域)
- P10 縄ヶ池の植生. 山下寿之(富山県中央植物園)
- P11 長野県入笠湿原における出現種と地下水位・光環境との関係. 牧 玲佳・島野光司(信州大学理学部物質循環学)
- P12 野生絶滅種コシガヤホシクサの野生復帰予定地における生育状況. 市川沙央里(筑波大・生物資源)・鈴木康平・永田 翔(つくばアクアキャンプ)・田中法生(国立科博・植物園)・上條隆志(筑波大・生命環境)・中村 徹(筑波大・生命環境)

- P13 池塘の植生変化から見る静狩湿原の変遷. 富士田裕子 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)・李 娥英 (北海道大学大学院農学院)
- P14 エゾシカの採食と踏みつけによる釧路湿原高層湿原植生の変化. 村松弘規 (北海道大学大学院農学院)・富士田裕子 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)
- P15 岡山県旭川の河原における竹類の根茎と土壌粒径組成の関係. 太田 謙 (加計学園・自然植物園)・波田善夫 (岡山理大・生物地球)・堀 幸弘 (国交省・岡山河川)・清水信夫 (国交省・岡山河川)
- P16 多摩川におけるハリエンジュの開花・結実と訪花昆虫. 西熱甫江 買買提 (東京農工大・院・連農)・星野義延 (東京農工大・院・農)
- P17 イタリア半島南部およびシチリア島の礫床河川植生. 吉川正人 (東京農工大・農)・Riccardo Guarino (Palermo Univ.)・Sandro Pignatti (Roma Univ.)
- P18 関東地方のサイカチの生育環境によって異なる更新様式. 伊藤彩乃・河上友宏・百原 新・三島孔明 (千葉大学大学院園芸学研究科)
- P19 三宅島 1983 年噴火堆積地における 2000 年噴火火山灰が立地に及ぼした影響と植生の関係. 岡本祐典 (筑波大学生命環境科学研究科環境科学専攻)・田村憲司 (筑波大学生命環境系)・上條隆志 (筑波大学生命環境系)
- P20 三宅島 2000 年噴火後の萌芽再生. 黛 絵美・上條隆志・藤井美央 (筑波大学)
- P21 モンゴルの乾燥草原におけるネギ属植物の分布と環境傾度. 宇田川卓義・永松 大 (鳥取大・地域)・程 云湘・坪 充 (鳥取大・乾地研セ)

## 訂 正

植生学会誌第 28 巻 2 号 (2011 年 12 月発行) に掲載した論文に誤りがありましたので、次のように訂正します。

原著論文: 宮崎 卓著「中国海南島における水田および水田隣接地植生の植物社会学的研究」

(誤)

(正)

- |  |   |   |
|--|---|---|
| P. 83 「 <i>Eriocaulon sieboldianum</i> lower unit」   | → | 「 <i>Eriocaulon cinereum</i> lower unit」  |
| P. 84 「初保村 (Chubao 北緯 18° 77'-86', 東経 109° 54'-67'), 水満村 (Shuiman 北緯 18° 86', 東経 109° 67'), 保力村 (Baoli 北緯 18° 69', 東経 109° 47')」 | → | 「初保村 (Chubao 北緯 18.77°-18.86°, 東経 109.54°-109.67°), 水満村 (Shuiman 北緯 18.86°, 東経 109.67°), 保力村 (Baoli 北緯 18.69°, 東経 109.47°)」 |
| P.84 「(北緯 18° 20'-30', 東経 109° 40'-70')」   | → | 「(北緯 18.20°-18.30°, 東経 109.40°-109.70°)」  |
| P. 86 「A. コナギーケミズキンバイ群落 <i>Monochoria vaginalis</i> - <i>Ludwigia adscendens</i> var. <i>plantaginea</i> community」              | → | 「A. コナギーケミズキンバイ群落 <i>Monochoria vaginalis</i> var. <i>plantaginea</i> - <i>Ludwigia adscendens</i> community」               |
| P. 86 「a. ホシクサ下位単位 <i>Eriocaulon sieboldianum</i> lower unit」  | → | 「a. ホシクサ下位単位 <i>Eriocaulon cinereum</i> lower unit」   |
| P. 87 「植生単位 (群落下位単位)」  | → | 「植生単位 (群落, 下位単位)」   |
| P. 87 「ノミノフスマーケキツネノボタン群集」  | → | 「ノミノフスマーケキツネノボタン群集 <i>Stellario-Ranuncule-tum cantoniensis</i> Miyawaki et Okuda 1972」                                      |
| P. 90 Table 3 「 <i>Aneilema keisak</i> イボクサ」   | → | 「 <i>Murdannia keisak</i> イボクサ」   |
| P. 92 Table 4 「 <i>Ischaemum aristatum</i> var. <i>glaucum</i> ハリイ」  | → | 「 <i>Eleocharis congesta</i> var. <i>japonica</i> ハリイ」  |
| P. 93 「Harbard University Herbaria」  | → | 「Harvard University Herbaria」   |

植生学会誌第 29 巻 1 号 (2012 年 6 月発行) に掲載した論文に誤りがありましたので、次のように訂正します。

原著論文: 石田弘明・服部保・黒田有寿茂・橋本佳延・岩切康二著「屋久島低地部の照葉二次林に対するヤクシカの影響とその樹林の自然性評価」

表 9 の脚注の \* $P < 0.01$  を省く